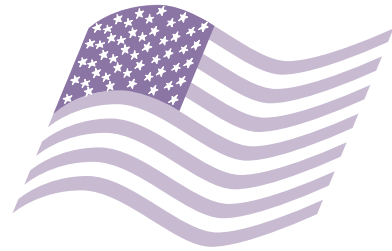


米国大統領予備選挙



Q:このところ米国の大統領予備選挙が話題になっていますが

A:米国の大統領予備選挙は1月19日のアイオワ州を皮切りに始まりました。

米国では、4年に一度、11月の第一月曜日の次の火曜日に大統領選挙が行なわれます。ちょうど今年はその選挙の年にあたり、11月2日に投票が予定されています。これに先立って、各党が候補者を一本化するために行なうのが予備選挙です。

Q:その仕組みを教えてください

A:米国には共和党・民主党の二大政党があり、両党がそれぞれ予備選挙を行ないます。選挙は間接選挙で行なわれ、有権者は直接立候補者を選ぶわけではありません。選ぶのは、夏に行なわれる全国党大会で、各党の統一候補を正式に決める代議員です。

代議員の総数は共和党と民主党で違い、今回の場合、共和党は約2,500人、民主党は約4,300人です。これを各党が人口などを基準に各州に割り当てます。

人口の多い州と少ない州では割り当てられる代議員の数に差がでます。例えば民主党の場合、カリフォルニア州の代議員数(440名)はアラスカ州(18名)の約24倍です。

具体的な選出の仕方は、州によって二通りにわかれます。一つは投票形式で、有権者が投票所に出向いて一票を投ずるという、いわば普通の選挙のイメージです。

もう一つの形式は、党員集会で

す。こちらの場合は、地区ごとに有権者が集まって、話し合いなどを通じて代議員を選び、その結果を州全体で集計します。アイオワ州の例では、約2,000もの地区に分かれて、集会が行なわれるということです。

Q:どうして二通りの方法があるのですか

A:そもそも米国の選挙制度は複雑ですが、予備選挙はその典型です。候補統一のための各党の手続きですから、政党によって仕組みが微妙に異なります。また、選挙は州ごとに管理されているので、州によっても仕組みが違います。有権者の定義も党・州によって違い、党員に参加を限定する場合もあれば、限定しない場合もあります。

Q:いつ頃候補者は決まりますか

A:予備選挙は、6月にかけて各州ごとに実施されていきます。もっとも、共和党ではブッシュ大統領が再選を目指しており、有力な対立候補がいまいません。従って、本格的に予備選挙が争われるのは民主党だけです。

民主党でも、代議員の過半数を獲得すればよいわけですから、最後

の予備選挙を待たずに、党の候補者が事実上決定する可能性が高いでしょう。とくに、カリフォルニア州やニューヨーク州といった代議員数が多い州の予備選挙が集中する3月2日は、スーパー・チューズデーとも呼ばれ、大きな注目を集めます。ちなみに、前回の大統領選挙では、3月初めには各党の候補が決定しました。

こうした手続きを踏んだ上で、正式に各党の統一候補を決めるのが、夏に行なわれる全国党大会です。民主党は7月26日からボストンで、共和党は8月30日からニューヨークで、それぞれ党大会を開催する予定です。

Q:長丁場の戦いになりますね

A:多くの候補者は、今から一年以上前に予備選挙への立候補を表明しています。予備選挙、そして、本選挙と、大統領にたどり着くまでには長い道のりを踏破しなければならないのです。【】

みずほ総合研究所 調査本部
主任研究員 安井明彦
akihiko.yasui@mizuho-ri.co.jp

●米国大統領選挙スケジュール(予定)

2004年1月19日	予備選挙開始(アイオワ州)
3月2日	スーパー・チューズデー (カリフォルニア州、ニューヨーク州などで予備選挙)
7月26～29日	民主党全国大会(ボストン)
8月30～9月2日	共和党全国大会(ニューヨーク)
11月2日	本選挙投票日
2005年1月20日	大統領就任式